

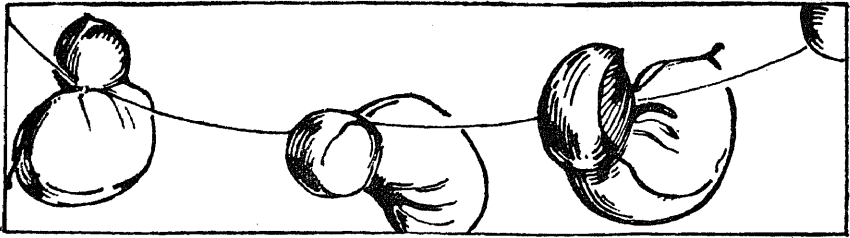
# 幼見之教育



第 二 號      二 月 號      第 四 十 四 卷

東京女子高等師範學校內

日本幼稚園協會



第 二 號 幼 兒 教 育 の 幼 兒 第 四 十 四 卷

— (次 目) —

子等と共に祈り子等と共に誓ふ……………倉橋惣三(一)

保育刷新の一指標(二)……………小川正通(二)

幼児の科學疑問の調査……………有元石太郎(六)

日本幼児飛行機獻納貯金の提唱……………(三)

材料なしの保育案……………(三)

決戦下の保育の試み三つ……………淨謙チサコ(三)

資材なしの保育案……………作田せつ(七)

# 保 育 奉 公

## 大 東 亞 戰 爭 必 勝 完 遂

子等と共に祈り子等と共に誓ふ

倉 橋 惣 三

月の八日の朝。

子等は明治神宮の方面に向つて整列してゐる。遊園の體操の時以外、こうして廣い室に揃ふことの少ないのに、毎月この日は、立派にきちんと整頓してゐる。先生方も不動の姿勢をとつて列側の位置に立つ。

君が代合唱二回。合唱となるは大聲を張りあげて調子を破る連中が、けふは落ちついて、おとなの用語でいへば肅然と歌つてゐる。

一人の先生が子等の列の前へ進んで、正面向きに立つた。心なしか子等も姿勢を正した。先生の敬禮にならつて、子等も一齊に敬禮する。

カミサマ

ニツボンノ クニヲオマモリ クダサイ

イクサラ シテキマス ニツボンノ ヘイタイタチヲ オマモリ クダサイ

エウチエンノ ミンナデ オネガヒマウシ アゲマス

先頭の先生がこの祈禱の間、子等は小さい頭をさげて、しんんとしてゐる。先生の敬禮といつしよに、子等の敬禮が行儀よくつく。

先頭の先生は少しく胸を張つて、聲に力を籠めて唱へる。ニツボンハ ツヨイ

子等は聲を一ばいに張りあげて繰り返す。ニツボンハ ツヨイ

先生は更に力を籠めて。コノ イクサニ キツト カツ 子等のつゞける聲も一段と強い。

ワタクシタチモ キツト ヨイコニ ナリマス

多少長い三番目の句を、一といきに子等がつゞける。なかに幾人か呼吸のそるはぬのが列側の

先生方の耳に却つて可愛らしく聞える。

先頭の先生は恭々しく敬禮をして、もとの位置に歸る。子等と顔をあはせれば、きつと顔を

くすす此の先生が、この場ではにこりともしない。此の先生に對してはいつとも直ぐ笑顔になる

子等も、ちつと先生の目を見て聲も出さない。ピヤノが響く。うみゆかは……

子等はわれに歸つたやうに肩を動かして唱ふ。「おとぎみの へにこそ しなめ かへりみ

はせじ」

子等にしてはむづかしい言葉であるが、今から誓ふ日本臣民の誓ひである。

# 保育刷新の一指標

——新制師範學校に於ける保育實習要項を中心として——

奈良女子高等師範學校教授  
附屬幼稚園主事

小川 正 通

(三)從來の幼稚園保育に於て、小學校が教授に偏してゐた如く保育項目の指導に主力を注ぎ過ぎて來たことは、爭へぬ事實であらう。故に教育審議會の答申、「幼稚園ニ關スル要綱第二項は、「幼兒ノ保育ニ付テハ特ニ其ノ保健並ニ躰ヲ重視シテ之ガ刷新ヲ圖ルコト」ニ注意を促してゐるのである。

保健は、實に保育活動の根柢たるべきものであつて、幼兒が不健康、虛弱であつては、如何に躰を施し、如何に保育項目を指導しても無意味に近いであらう。元來幼兒の身體は、尙ほ孱弱であり、罹病率も、死亡率も相當高く、怪我也爲し易いのである。然るにこの期の幼兒の健康は、その後の健康の基礎たるのみならず、心身は一加であるから、幼兒の精神の發達に對しても亦甚大な影響力を有してゐる。戦時下、食糧事情は、多少逼迫してゐても、健民健兵の育成こそ急務であるし、我が國民の活動分野が飛躍的に擴大した今日、幼兒の健康は、個人的な又一家の問題で

なく、實に國家發展の根源である。従つて吾々は、頑健にして敏活、逞ましい身體の幼兒ばかりにしなければならぬ。幼稚園に於ては、その環境、諸設備は勿論のこと、幼兒の全生活を擧げて、體育的、衛生的に配慮し、積極的に鍛鍊すべきである。即ち出来るだけ室外で遊ばせ、運動せしめ、園外保育を多くし、栄養、衣服等にも注意を怠つてはならない。躰に於ても、保育項目の指導に當つても保健衛生の原理を尊重すべきである。一般に幼兒に接するに際しては、親身を以て臨み、懇切周到、幼兒の身邊に絶えず注意を拂ひ、特に幼兒の健康状態に對しては、細心に注意するこゝを要する。その爲には幼兒の病氣の早期發見、傳染病の豫防、簡易なる看護手當等に關して、保姆は相當の教養訓練を積み、自信を有してゐなければならぬ。殊に決戦下の保姆の心構へとしては、非常時に際しての幼兒の救急看護に就き豫め充分な用意を必要とするこゝ、今日より急なるはないであらう。かやうな意味に於て、「指導上ノ

注意第四項が、「幼兒ノ身邊ニ絶エズ留意シソノ周到ナル世話ヲ爲シ親身ヲ以テ幼兒ニ接スルノ態度ヲ養フニ力メ特ニ幼兒ノ健康狀態ニ細心ノ注意ヲ拂ヒ事情ニ應ジテ適切ナル措置ヲ講ズルノ修練ヲ爲サシムベシ」ニ規定してゐることは、當然であらう。

勿論幼兒の保健も、その保護的方面にのみ傾く時は、幼兒をして肉體的には、虚弱、精神的には、憶病、引込思案にして予怖れが多分にあるから、幼兒に對しても、幼兒の心身發達に相應した鍊成を施す必要があるものであつて、多少の堪苦訓練は、これを行ふべきである。

(四)次に保育項目に關しては、現行幼稚園令施行規則第二條に於て、「幼稚園ノ保育項目ハ遊戲、唱歌、觀察、談話、手技等トス」ニ定められてゐるのに對して、「指導上ノ注意」第三項に於ては、項目の順位を稍々變更して、「保育案の中心項目を談話、遊戲、音樂、觀察、手技等」ニ排列してゐるこゝである。即ち談話を第四位から第一位に昇らせ、唱歌はこれを音樂ニ改稱してゐる點に、注目すべきである。

談話を冒頭に位置せしめてゐる理由は、一體何んであらうか。例へば行事故や我が國の神話、傳説、國民童話等を通じて、我が國の精神、國體の本義、國民精神の傳統をば、幼兒に對して徐々に而も明確に理解、徹底せしめて行かねばならないのである。又時局談、時事談によつて、大

東亞戰爭の現況を幼兒に語り、躍進日本の姿を刻みつけ、忠勇なる我が將兵の活躍を偲はせると共に銃後國民の心構を知らしめ、以て皇國の雄大な世界史的使命を我が國幼兒に對しての覺悟を促す必要があらう。而も談話は、國語の初歩的修練にしても、保育上深い意義を有してゐる。これを要するに談話は、國民學校に於ける國民科的要素を多分に有するこの認識に基づき、國民學校に於ける教科に倣つて、これを第一位に置いたものも想像されるのである。私もこれに贊意を表するものである。

次に遊戲に就ても、必要上述をなければならない。一體遊戲を第一位に置き唱歌以下に連なる現行保育項目の建方は、假令その中、觀察等が大正十五年に新に加はつたものは、明治三十二年の幼稚園保育及び設備規定以來のものである。而して遊戲を第一位に置いてゐるのは、幼兒の生活は畢竟遊戲であり、遊戲の連續であるこの思想からであらう。然しながら保育項目に於ける遊戲の主なる部分では、かやうな廣義の遊戲そのものではなく、寧ろ狹義の遊戲であると思ふ。廣義の遊戲には、幼兒の遊戲體系として保育項目全體が包含されねばならない。私はかやうに保育項目に於ける遊戲を寧ろ狹義に解し、從つて必ずしも遊戲を現行保育項目の如く第一位に置くべきものも、かねて考へてゐなかつたのである。

戰時下、皇國民鍊成としての遊戲は、輕快にして勇壯活

遊、楽しく可愛く幼児の全心身の活動を促す如き運動量の多い體育的要素を多分に具へたものであると共に、國民的情操の涵養に資するものでなければならぬであらう。而もそれは團體的訓練に役立ち、延いては國防能力の基礎増進に培ふ如きものたるべきが望ましい。かやうな観点から、練習遊戯、音樂遊戯も選擇、指導せらるべきであるし、又競争遊戯も、所謂自由遊戯（自由遊び）も一層重視すべきであらう。自由遊びは、その言葉によつて屢々誤解せられてゐる如く幼児を放任して勝手に遊ばせることであつてはならない。若い未熟な保姆は自由遊びの指導法を知らぬといはれてゐる。自由遊びは、一見自由に幼児を遊ばせつゝ保姆も幼児と共に遊びつゝ而もその間に保姆は、適當にこれが指導を行ふべきである。そして自由遊びは、幼児の社會性を陶冶し、共同の精神を涵養し、又想像力を充し、工夫創造の力を養ひ、觀察能力並に數觀念の發達に培ひ、身體を鍛へることに役立つ幼児の心身發達の爲の必要な機會である。要するに自由遊びは、狹義の遊戯と廣義の遊戯とを連結する役割を爲すものともいふを得よう。又その中に郷土的な遊戯を生かすことも可能であらう。他方自由遊びは、保姆にまつて幼児の身體狀況の注意、個性の觀察、言葉の指導、躑の上からも充分活用せられねばなるまい。かやうな意味に於て、自由遊びを一層重視すると共に、又その指導法に關し、充分研究を積まねばならないのである。

現行保育項目の唱歌は、これを國民學校と同様に音樂と改稱してゐる。小學校といはれた時代には、矢張り唱歌といつてゐたことは周知の如くである。これを改稱した理由は、幼稚園保育に於ても、國民學校と同様に唱歌といつたのでは、その範圍が狭少に過ぎるからであらう。保育に於ても、唱歌の外に、良き美はしい音樂の鑑賞も、更に音樂の基礎として將又國防上、産業上の要諦に基づき聽覺の初步的訓練（音感保育）をも行つてゐるし、又行ふ必要があるからである。近時唱歌に於て、國民的情操、國民精神、團體的精神を涵養、昂揚するに足る明るく、勇ましく、可愛い歌詞、歌曲が次第に選擇、指導せらるゝに至つたことは、歓迎すべき傾向であると思ふ。尙ほ現行保育項目に於て、遊戯、唱歌と續き、「指導上ノ注意」に於ても遊戯、音樂と續けて排列してゐるのは、保育上に於ける兩項目の密接なる關聯を暗示してゐるのである。

次に觀察は、談話が第一位に昇つた結果として、自然に第四位に降り、手技は、何等その位置に變更を見てゐない。然し手技は、幼児の工夫創造の力及び作業態度を涵養する上に重要であり、而も國防的なものに取材し得るし、科學技術思想の普及發展が喫緊の國策とされてゐる今日、觀察が國民學校に於ける理數科理科自體でないにしても、少くもそれへの前段階としての意味も有する以上而も幼児の觀察指導は中々困難なのであるから、「指導上ノ注意」に於

て、これ等にも一言あつて然るべきであつたのではなからうか。果して去る九月大政翼賛會が、政府に上申した科學技術思想普及ニ關スル具體策」中には、幼年層の生活ニ關係深き事物、環境を通じ科學技術思想を植えつける爲の具體案を「幼年層に對する事項」にして種々提案してゐるのである。

更に保育項目の建方、排列方法自體及び各保育項目の指導精神等に就ても論究すべきであるが、今回は紙數の都合上省略することにした。

要するに保育項目は、皇國民鍊成の重要な保育作用であり、常に娯及び保健ニ聯繫して、保育項目の一切を擧げて、皇國民の基礎的鍊成の素地培養の一途に歸一するのになければならないのである。

又それが保育項目と稱せられることによつて明らかなく、國民學校に於ける教科及び科目のやうに、その内容を教へ込み、それが徹底を期するが如き嚴密なものでない。然しながら幼児に雖も、保育項目の内容、精神を或る程度は意識的、有意的に學ぶことは、いふまでもないのであるから、國民學校に於ける教科及び科目の根本精神は、保育項目をも滲透、貫通してゐなければならぬ。こゝにも幼児保育機關と國民學校教育との密接なる聯關を認知し得るであらう。さて保育項目の指摺に當つては、幼児の心が前述の如く尙ほ未分化的統一を爲してゐるのであるから、國

民學校に於ける時間割式のものであつては無理である。出来るだけそれを綜合的、具體的に取扱つて行く必要がある。國民學校に於てさへ、その初等科第一、二學年生は、その心身の發達段階に顧み、兒童前期として特殊な取扱ひを爲し、周知の如く第一學年には、綜合授業を行ひ得る餘地を存せしめ、第一學年ニ在リテハ學校長ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ全部又ハ一部ノ教科及ビ科目ニ付綜合授業ヲ爲スコトヲ得」(國民學校令施行規則第二十七條)ニ規定してゐるのである。而してこの原理は、保育機關に於てこそ、條件なしに自由に採用し得るし、又用ひる必要がある。例へば遊戲と音樂の如き、觀察と談話と手技の如き、觀察と音樂と遊戲の如き綜合的、具體的に取扱ひ、一から他へ發展せしむることが可能であり、又必要である。從來に雖も心ある保姆は、かくの如く誘導、指導してゐたであらうと思ふ。尤も綜合的とは、各項目を「こぢややく」に混合せよとの謂ではないのである。以上によつて「指導上ノ注意」第三項に、「保育案ノ中心項目ヲ談話、遊戲、音樂、觀察、手技等ヲ通ジテ綜合的具體的ニ發展セシムル練習ヲ爲サシメ且ツ自由遊ビノ指導法ニ付習得セシムベシ」ニ強調してゐる理由を明らかに爲し得たであらう。

尙ほ一言すべきは、激烈なる戦局の現段階に於て、保育材料も、遊具も、教具等いづれも入手難であるが、それ等は凡て保姆の工夫創意によつて補ふことゝ又最悪の場合に處して、豫め簡素なる保育に就て研究して置くことの必要である。

經驗的興味時代に於ける

## 幼児の科學疑問の調査

東京都立武藏高等女學校

有元石太郎

(一)緒言 私は科學教育の重要性に鑑み、幼児・學生・生徒なきが自然界に對して如何なる疑問をもつかについて昭和十五年以來調査を進めてゐるのであります。今多少の資料が集りましたので中間報告をする次第であります。資料を提供して頂いた國民學校の先生方、都立武藏高女の生徒其他の方々に深甚の謝意を表します。

私共は皆幼児時代に種々の疑問を母なきに質問して親を困らせたものであります。年をこるに従つて、過去の疑問も、幼児時代の氣持をも忘れ、幼児の科學に對する心も大人の科學に對する心の働き方に本質的異なるものが多いことも亦殆んど忘れてゐるのであります。このことは吾々が大人の考へ方で幼児の科學を指導してゐるこゝが多いのでわかると思ひます。吾々は大いに反省をしなければなりません。かゝる意圖のこゝに本調査を初めたのであります。この調査によつて幼児科學の本質、心理的傾向、年

齡別による變化なきを知り、又幼児科學の對象とその内容等につき、幼児科學指導上に何かの参考になるこゝがあれば幸甚存するのであります。

この中間報告は七歳までの幼児の科學疑問三百三十二件を取り上げて調査の對照にしたので、僅かの材料で獨斷に陥る心配も可成濃厚であります。それは大方の御指導と資料の御惠送により將來の完璧を期させて頂きたいのであります。

(二)年齢別質問數 質問件數を表の如く年齢別にしてみます。三歳頃からばつ／＼質問が始まります。この時代の質問數が少いのは、まだ知的發達の度が低く専ら本能的生活を行つてゐるこゝに、言葉の發達が十分自己の意志を發表する迄に到らないこゝ等に原因するのであります。

五歳頃になります。言葉の方も知的方面も著しく發展し、見るもの聞くもの皆不思議であり驚異を感じ強烈な求



知心のため急激に質問を初めることは承知のことであります。

扱てこの時代の質問數及びその内容を見ても、この年齢期に於ける科學指導が子供の將來の科學心を培ふ上に重大なる役割を演ずるであろうことが了解されます。ところがこの時代に於て大抵の親は、子供の質問に答へられないものが多いので、その質問の執拗さに非反省的な返答をして大切な科學の萌芽を摘み取つてゐるのではないでせうか。

その結果が六歳頃の質問數の減少になつて現れるのであるといふ考察も一應は可能でありませう。然し幼兒本來の科學疑問は中々強烈であり旺盛であり、その内容も年齢と共に深めて行きますから適當の指導を行ふならば子供の科學水準もぐんぐんたかまることゝ存じます。

(三) 對象から見た科學疑問 本調査に従つて幼兒の科學對象を内容から眺めます。物象方面が五五%、生物方面が四五%の質問數になつてゐます。更にこれを分類してみますと、一番多いのが人體に關する二二%、第二位が天文に關する一七%、第三位は物理に關する一七%で二〇%、第四位は動物に關する一七%でその次が氣象或は植物等に關する一七%であり一番少なかつたのは化學の方面で一%にも及びません。

この内容を見ますと幼兒は自分に最も縁の近い人體に澤

第一表 幼兒の科學質問數

	三歳	四歳	五歳	六歳	七歳	計
人體	3	4	20	25	21	73
天文	1	8	18	21	21	69
物理	2	5	21	22	16	66
動物	1	0	23	11	21	56
氣象		3	11	13	18	45
植物			9	7	4	20
化學		1	1		1	3
合計	7	21	103	99	102	332

第二表 某幼稚園觀察部教材表

植物	動物	物理	氣象	雜
29	11	8	7	2

山の疑問を感じてゐます。その次に天文や物理や動物に澤山の疑問を感じてゐますが、その疑問内容を吟味してみますと、何れも幼兒の身邊に直接關係があり經驗したものや、動的のものに多く靜的のものや未經験のものには割合興味がないのであります。

第二表は東京都に於ける某觀察部選定の教材を學科別の表にしてみましたであります。幼兒の動物に對する疑問は私の調査では二三%に過ぎませんが、この幼稚園では七〇%を動物教材に提供し、しかも靜的植物教材をもつて殆んばを占めてゐます。以上のことは單に幼兒疑問内容から觀察部教材に一考察を加へたに過ぎませんが、一應考慮の餘地ある問題ではないでせうか、私はこの點について今

後一層の御協力を得て實際的研究を試みたいと存じてゐます。

#### (四) 經驗的興味時代幼兒の疑問の實例

經驗的興味時代は大體四、五歲位迄をいひます。しかし知能年齢と時間年齢とは必ずしも一致いたしません。次に列記致します質問内容は時間年齢によつて區分したものでありますからその點を豫め了解しておいて頂かなければなりません。

#### (一) 三歳の幼兒の質問例

##### (1) 人體に關すること

- 一、オシッコの中になぜお茶があるの(男)
- 一、手の皮の中には何があるの(男)
- 一、赤ちやんは小さいがなぜ(女)

##### (2) 天文に關すること

- 一、日が暮れるつてどんなこと(女)

##### (3) 物理に關すること

- 一、風はさうして吹くの(女)
- 一、ラジオの中には人がゐるの(男)

##### (4) 動物に關すること

- 一、テフはさうして花にままるの(女)

#### (二) 四歳の幼兒の質問例

##### (1) 人體に關すること

- 一、なぜ男と女があるの(女)

- 一、さうして赤ちやんはお母ちやんのボンボから生れたの

##### (男)

- 一、さうしてお風呂に入るの(女)

- 一、さうしておぢいさんの毛は白いの(女)

##### (2) 天文に關すること

- 一、なぜお月様はおちないの(男一回女一回)

- 一、さうしてお月様出るの(女二回)

- 一、さうしてお月様光るの(女)

- 一、星はさうして光るの(女)

- 一、星様はさうして夜出るの(男一回女一回)

##### (3) 物理に關すること

- 一、さうして雪は白いの(女)

- 一、さうして電氣は光るの(女)

- 一、硝子の向ふにもなぜ電氣がつくの(男)

- 一、さうしてマッチに火がつくの(男)

- 一、ラジオはさうしてお天氣がわかるの(男)

##### (4) 氣象に關すること

- 一、冬はなぜ寒い(女)

- 一、さうして雨が降るの(女)

- 一、さうして雷はゴロゴロなるの(女)

##### (5) 化學に關すること

一、鹽はなぜからいの(男)  
三、五歳の幼児の質問例

(1) 人體に關するこゝ

- 一、さうして髪は黒いの(女)
- 一、さうしてパーマネットかけるまぢられるの(女)
- 一、年をさるささうして白髪になるの(男)
- 一、お母ちゃん男?女?(女)
- 一、さうしてお母ちゃん赤ちやんを産むの(女)
- 一、コブはさうしてふくれるの(男)
- 一、ホクロはさうして出来るの(男)
- 一、さうして手に指が五本あるの(男)
- 一、おぢいさんはさうしておぼえがわるいの(男)
- 一、蚊に刺される、さうして搔ゆいの(男)
- 一、目玉はさうして動くの(女)
- 一、人はさうして水をのむの(女)
- 一、人はなぜ泣くの(女)
- 一、人はなぜ病氣になるの(男)
- 一、人はなぜ死ぬの(女)
- 一、寒いさなせ口から煙が出るの(男)
- 一、西洋人はおばあさんになるさなせ肥えるの(男)
- 一、人はなぜ好き嫌ひがあるの(男)
- 一、おひるになるさなせ御飯を食べるの(男)

一、人に尾があつたつて、本當う(男)

(2) 天文に關するこゝ

- 一、さうして星は夜出るの(女)
- 一、さうして星は澤山あるの(女)(二回)
- 一、さうして星はキラキラ光るの(男)
- 一、あれ何に(流星を見て)(男)
- 一、星はなぜミがつて(五つ)にるの(男)
- 一、お月様はなぜ、私について来るの(男)(二回)
- 一、お月様に兎がるるの(女)
- 一、なぜお月様は黄色いの(女)
- 一、お月様はなぜ形が變るの(女)(一回男一回)
- 一、お月様のお家どこ(男)
- 一、お月様はなぜいつも笑つてるの(女)
- 一、お月様のお年いくつ(男)
- 一、お日様は夕方なぜ赤いの(男)(一回)
- 一、お日様をみるさなせクシャミが出るの(男)
- 一、夕朧はなぜ赤いの(男)

(3) 物理に關するこゝ

- 一、火はなぜ赤いの(女)
- 一、火はなぜ熱いの(男)
- 一、空はなぜ青いの(男)
- 一、海はなぜ青いの(男)

一、夜はなぜ暗いの(男)

一、なぜ風が吹く木の葉が動くの(男)

一、なぜ時計は一人で動くの(女)

一、なぜ紙は破けるの(女)

一、なぜゴムケシで字が消えるの(男)

一、なぜ電車は走るの(男)

一、なぜ飛行機は飛ぶの(男)

一、なぜ茶碗を横にするところがるの(男)

一、石鹼はなぜつる／＼してゐるの(女)

一、石鹼はなぜあぶくが出るの(女)

一、鏡を太陽に當てる白いものが出るのはなぜ(男)

一、鏡はさうして見えるの(男)

一、水はさうして冷いの(男)

一、電氣はなぜ明るい(男)

一、スキッチをひねるミなぜ電氣がつくの(男)

(4)動物に關するこゝ

一、どこにトンボは夜ねんねするの(男)

一、さうして猫はニャンニャン、犬はワンワンミなくの(男)

一、さうして強いものミ弱いものミがあるの(男)

一、さうして犬ミ猫ミは仲がわるいの(男一回女一回)

一、猫はさうして魚をほしがるの(女)

一、さうして猫にヒゲがあるの(男)

一、さうしてお猿さんのお尻は赤いの(男)

一、さうしてお猿さんに尾があるの(女)

一、さうしてキリンの首は折れないの(女)

一、さうしてキリンの首は長い(男)

一、象の鼻はさうして長い(女)

一、さうしてトカゲの尾は切れるの(女)

一、鳥はさうして飛べるの(男)

一、さうして蟲が鳴くの(男)

一、ブンブン蟲なぜブンブンいふの(女)

一、セミなぜ鳴くの(男)

一、トンボはなぜミべるの(男)

一、トンボはなぜ水の中に卵を産むの(男)

一、セミのお家はどこにあるの(男)

一、セミは冬どこに行くの(男)

一、金魚はお水の中でなぜ死なないの(女)

一、なぜ蟲は人より早く死ぬの(女)

(5)氣象に關するこゝ

一、冬雪が降るミなぜ寒い(男)

一、なぜ雲は綿のやうなの(女)

一、なぜ雨はザーミ降るの(女)

一、井戸の水はどこから出るの(女)

- 一、夏はなぜ暑いのか(男)
  - 一、なぜ雷はピカピカゴロゴロなるのか(女三回)
  - 一、雷がなるミなぜカヤをつるのか(女)
  - 一、雷様はおへそを取るの本當う(男)
  - 一、なぜ風が吹くのか(男二回)
  - (6) 植物に關するこゝ
  - 一、さうして木に枝があるのか(男)
  - 一、さうして松の木は赤い色か(男)
  - 一、さうして葉は綠色か(男)
  - 一、さうしてサトイモの葉にツユがあるのか(女)
  - 一、さうしてカキの種を蒔くミ木になるのか(男)
  - 一、花はさうして咲くのか(女)
  - 一、さうして花には色々の色があるのか(男)
  - 一、茄子は夏だけなるの、冬もなればよいのか(女)
  - 一、朝顔はツルになるが夕顔はなぜつるにならないのか(女)
  - (7) 化學に關するこゝ
  - 一、海の水はなぜ鹹いのか(男)
  - (8) 雜
  - 一、神様になぜお水をあげるのか(男)
  - 一、お人形はなぜ歩けないのか(男)
- この最後の質問のやうに、五歳位迄の幼児の疑問は大人の世界ミ全く異つており、主客未分化の時代であります。

外界の實在を充分に認識するこゝが出来ず。全く非科學的の考へ方をする時代でありますから、人形ミ自分の生活ミの區別がつかみません。お人形が本當に歩いてもよいものだミ思ひ切つてゐますからお人形の歩けないミが疑問ミなるのであります。「セミのお家はどこにあるの」ミいふ五歳男兒の質問も「どこにトンボはねんねするの」ミいふ五歳男兒の質問も決して大人の世界に於ける正しい科學的の答を求めてゐるものではありません。幼兒等はやはり自分ミ同様にセミのお家を想像し、トンボのお満園を眞面目に考へてゐるのであります。

知能が進むに従つて事物の目的や原因、由來、現象等を質問するやうになります。

「人はさうして水をのむの」ミいふ五歳の女兒の質問、蚊に刺されるミさうして搔ゆいの」ミいふ五歳男兒の質問なごみなこの例であります。

以上四、五歳迄の幼兒の質問を通覽しますミ大體に於て自分たちの經驗した事柄について好奇心を起してゐますので、これを經驗的興味質問時代ミいつてよいと思ひますが六、七歳位になりますミ質問の内容も大變違つて來ます。六、七歳頃の質問内容や幼兒疑問の心理的方面其他につまましては次の機會に詳細記述してみたいミ存じます。

# 日本幼兒飛行機獻納貯金の提唱

## 規定

戦争は愈々苛烈になりました。敵の反抗も油断ならぬものがあります。戦線の將士は身を以て闘つてゐて下さる。銃後からの補給を何よりも待つてゐるのは飛行機です。此の決戦を有利に決するためには一番緊急なものは飛行機です。

今や、その大切な飛行機の製作に、國を擧げての全力がつくされてゐます。幼兒達の心にもそのことが響いてゐませう。その心を實現させ具體化させるために、日本幼兒飛行機獻納貯金を提唱します。各園では既に實行されてゐるところも少なくありません。又明日から實行しようとしてゐられる園もありませう。

此の、全國の幼稚園の心を一つにまとめたい。その方法として、本會は各園からの、獻金の御寄託を受けて、幼兒達の總意を陸海軍に獻納表明するお取次ぎ役になりたいと思ひます。一人々々を幼稚園としてまとめ、園々が更に全國としてまとまることにより、軍用飛行機「日本幼兒號」が作られたらと切望します。それが出来なくとも、せめて一翼となり、機體一部となり、日本幼兒の一團の意氣を敵に見せてやりたいと希ふのであります。

御賛同を願ひます。

一、各園で幼兒の飛行機貯金を計畫的に實行して下さい。

一、保護者、職員の方々の御参加も希望します。

一、各園名(所在地、代表者名も)を明記し、本會へ(東京都小石川區大塚町三十五、東京女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會宛)お送り下さい。振替口座(東京一七二六六)或は郵便爲替(書留郵便にて)いづれとも御便宜に任せますが、「飛行機獻金」と必ず附記して下さい。

一、第一期は昭和十九年二月末日とします。

一、全體をまとめて直ちに陸海軍に獻納します。

一、獻納には御寄託各園名を列記します。

一、別に受領證を差上げず、獻納完了と共に、本誌(昭和十九年四月號)に發表します。

一、一切の費用は本會の負擔とし、御寄託の金額全部を獻納します。

昭和十九年一月

日本幼稚園協會

(責任者 倉橋惣三)

# 材料なしの保育案

國內の物資は凡て戦力増強の爲に集中せられねばならない現在、幼稚園の保育材料も従來のやうなわけにいかないのは當然過ぎる程當然のことで、吾保母もこの點大いに考へなければならぬところである、そこでこの度「資材なしの保育案」といふものを伺つたところ、次の三玉稿を得た。何かにつけて御多忙なところを、本誌の爲御快諾下さつた淨謙、作田の二先生に御厚禮を申上げると同時に、この主旨の試みを實行せられておいでの幼稚園から、どし／＼御投稿いたゞき度く合せてこゝに御願する次第である。

(編輯部)

## 戦時保育の一特長

保育材料の足りないことは戦時幼稚園の免れ難い事である。多い少ないをいへば多い方がいゝにきまつてゐる。十分と不足とをくらべれば不足は不足に相違ない。しか

しその缺乏も不足も、ほかの理由からではない。戦時下一言半句の不服も嚴禁である。その上、足りなければ足りないだけに、

保育者の工夫の力が出、工夫のし甲斐もあるのである。何ごにも一ぱいに力を用ゐてゐるのが戦時である。材料の乏しさを工夫の豊かさで補つて餘りあらしめるのが、それこそ戦時保育の一特長でなければならぬ。決して戦時保育の短所たらしめてはならない。

但このために大きな努力を要するのは素よりである。諸方面の上に行はれてゐるこの點の努力に對して深く敬意を表する。

(倉橋生)

## 決戦下保育の試み三つ

奈良女高師附屬幼稚園

淨謙 子サコ

念々大東亞戦争は第三年目に入った。南に北に、今此の瞬間も暴虐米英撃滅の熾烈

なる戦ひを續けて居られる皇軍に應へて、我々もあらゆる困苦缺乏に堪へ、この戦ひを勝ち抜かねばならぬ。この意義深い、然

しながら幾多の障害をひかへた戦を戦ひ抜き、明るい大東亞の黎明を築き上げる日まで、一億の國民が心ひとつに暮して行かねばならぬ時、大切な御國の子等をあづかる我々の保育も、顧みて遺憾の點はないか、新しく検討し直さねばならぬと思ふ。

子供達、これは皆御國の子供たちである。かけがへのない尊いひとり／＼である。この子供達だけは、どんなことがあつても、さうかして健かに、強く、正しく、明るく、伸ばしてやりたいものである。が、反抗にいよいよ逸る敵米英は、その量をとらんで、殿しい我が備へをも突破して、内地を襲ふことが無いとも限らない。又、長期の空襲態勢に入らねばならぬ時が来ないとも斷言することは出来ない。然しながら、斯る時にも我々は、動ぜず、あわてず、一刻たりとも、大切な御國の子供の保育を忘れてはならぬ。非常の時の爲の、臨機の保育を、常々、否、今直ぐにも考へて用意

せねばならぬ。これは、決戦下に保育の任にあるもの、當然の務めであるといはねばならぬ。又、時局緊迫の度を加へるに従ひ、各種の物資は極度の制限を受け、その餘剰の力を戦力増強にふりむけねばならぬ時、保育に必要とする設備、並びに種々の材料も亦、不備不足となるのは云ふまでもない。かうした設備の不完全、材料の不足をも克服して、楽しく、明るく、子供達を育て、行くことも亦、今の我々に與へられた一つの大切な仕事である。即ち、ありあはせのものを使用して、機智を働かせ、工夫創造によつて、様々の利用價值を見出し、それを活用することが肝要なのである。

尙又、保姆の手を出来るだけ省いて、能率の増加をはかることも大切である。以上述べた如く、種々の意味から、従来の、調つたお膳立ての上に組み立てられた保育は、こゝに新しく、大きく切りかへられて、時代のあらゆる要求に即應して、保姆の機智、工夫創造と、實踐による簡素化された、決戦態勢の保育が誕生し、確立されねばならぬと思はれるのである。斯くして、如

何なる困苦缺乏の中にあつても、日本の子供たちは、我々の手で、逞しく、明るく、伸び伸びと、育てあげるのでといふ、自信と覺悟を我々は持たねばならぬ。さうした意味から、こゝに決戦下の保育を二三考へて見たいと思ふのである。

(一)

題材 小石ならへ  
 目的 物資不足の折柄、積木も手に入らず、排べ板等も中々得られない。かうした時、庭にころがつてゐる小石を集め、これを使用して遊ばせる事により、構成力を錬り、工夫創作力を伸ばし、更に、自然愛好の心、素朴な氣持を養ふ一助とも資したい。直徑二種から六種位までの小石を、出来るだけ澤山集め、數個のザルに分け置く。

方法

- 1、晴天の日、幼児と共に、庭の小石を拾ひ集める。土を着いてゐるものは、綺麗に洗つてザルに入れ置く。
- 2、冬の寒い日ならば遊戯室、又は保

育室で、机を全部片付けて廣い場所を作る。五六人の幼児を一組として、一籠の小石を與へ、廣い場所に出來るだけ大きなものを作らせる。幼児達は、與へられた小石を利用して、軍艦、飛行機、汽車、お家等、色々工夫創作をなし、非常に興味深く遊ぶやうである。氣候の良い時は、戸外の藪の上でやらせるのもよい。

材料が少くなると、拾ひ集めて來ては、遊びが擱げられて行くのも面白い。

3、小石に、木の葉、草、割箸などを併用すると、變化のある面白い遊びが出来る。

(二)

題材

米英撃滅

目的

物を投げることは、幼児達にとつて本能的に興味ある事であり、又決戦下の實生活に於ても是非必要なことであるが、幼児の生活のうちには、



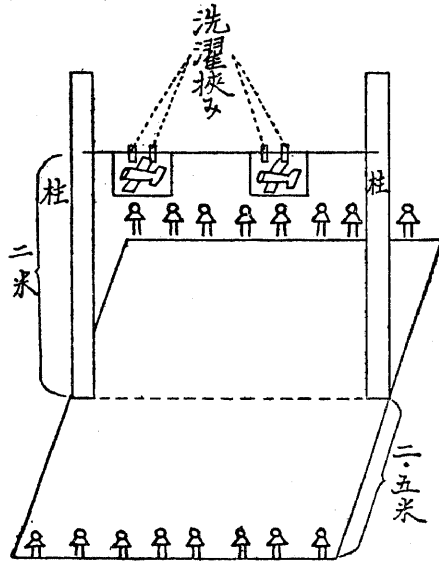
かうした運動を行ふ機会が少いやうである。米英幣減といふ遊びをして、一面には、投擲力を錬磨し、又一方に於ては、敢闘精神を高揚したい。

準備

- 1、一枚の新聞紙を二つ折りにして、両面に墨汁で敵國の飛行機を描き置く。
- 2、遊戯室中央に、高さ二米位の位置に柱を利用して、紐を引張る。
- 3、紅白球
- 4、洗濯扱み
- 5、笛

方法

- 1、机の上に墨汁二皿、筆五、六本を用意し置き、登園幼児より、新聞紙を二つ折にして両面に、思ひきり大きく敵國の飛行機を描かせる。競技を何回も繰返すため、全幼児に描かせて置くと、一組三十人として、紅白二組に別れて、十五回競技が行はれる。
- 2、描きたる飛行機が乾きたる頃、遊



戯室に圖のやうな準備をなす。

遊戯室ならば、柱、戸外ならば庭の木を利用して、地上より二米の高さに紐(小包用位なもの)を引張る。其の紐に二つ折りの新聞のわさの方を掛け、洗濯扱みに二ヶ所挟み置く。飛行機を中心にして、二米半宛離れた床の上に線を引き、此の線上より兩軍が、紅白の毬を投げて飛行機を打ち破るのである。毬は手に持てる

注意

1、紅白の毬は、何處の幼稚園にもあると思ふが、お作りになる方の参考までに申し上げたい。當幼稚園では左圖の如き型紙を興紙を興へ、幼兒の家庭で紅白一個宛作らせた。即ち上圖の機なアレー型を二枚布切で作り、それを縫ひ合せて裏返し、その中に紙屑を入れると大きさも揃ひ、固さ



だけ澤山持たせる。一つ持つて一つ投げるのでは面白くない。四個或は五個位手に持ち、規定の線上に立ち、續けて投げると効果的である。

も丁度適當なものが出来る。一度に、幼児の数の倍の毬が出来るので、それは色々の遊びに使用出来るから、作つて置かれるとよいと思ふ。

## 2、飛行機と、毬を投げる位置との距離

離は、幼児の投擲力によつて適宜變化して行く。

## 3、男女別、男女混合、色々組合せてやると面白い。

### (三)

## 題材

（從來のかけえは、電氣の光線、又は太陽の直射光線を利用して映したものであるが、割合に光線の弱い冬の日の室内、又は雨の日でも出来るやうな方法を考へて見た。）

目的  
 幼児は、地上に自分の影を映して影踏鬼に興じ、夜、電燈の下で、障子に映る様々な影を見ては、非常な興味と神秘を感ずるものである。今日は、簡単な映寫幕を作り、太陽光線を利用して、自然物、繪本の切り抜

き等を映し、楽しく幼児を遊ばせ、それによつて、幼児の科學心啓培の一助ともなし、又、幼児自身に實演させることによつて、言葉の練習にも資したい。

## 準備

1、映寫幕 古い額の出来るだけ大きなものに、人絹の白布、又は硫酸紙を押ピンにて張りつけ、それを人體が隠れる位な高さの机、又は箱の上のせて積木で支へて立たす。

2、登場するもの 繪本を切り抜いた人物、動物、軍艦、戰車等を割箸の先に挟んで左圖の様に柄をつけ、持ちやすい様にして置く。其他自然物、草、木の枝など。

## 3、蓄音機及びレコード

1、先づ、幼児に古繪本の繪を切り抜かせ、又は少し厚い畫用紙に描かせたる繪を切り抜かせ、持ち易きやう割箸をつける。

2、映寫幕の下部の方には、庭の草を

取つて来て、押ピンでつけるか、又は粘土につきさして置くこと、地上を表現することが出来る。

3、最も簡単な遊び方の一例をあげる  
 と、勇しいレコードの曲につれて、戰車、裝甲自動車、騎兵、歩兵などを次々に映寫幕の左端から右に送り、更に下を通つて、左から右へ動かして行くこと、勇しい進軍の様子を表現することが出来る。又、映寫幕の下部に、水色の紙で波型を作り、押ピンでとめ、軍艦行進曲の曲に合はせて軍艦の切り抜いたのを動かして行くこと、我が無敵海軍、堂々進撃の姿を表はし、鷄の親子を登場させて、レヒョコガニハテグと歌ひ乍ら餌を拾ふ表現をなすことによつて、豊かなる親子の愛情に浸らせることが出来る。又、兎と龜を登場させて、簡単な會話をしながら駈けくらなさせるのも、言葉の練習によいと思ふ。以上は幼児が人形を使つて出来る簡単なものであるが、保姆が少

し手をかけて、童話を映寫してやる  
と、子供たちは非常に喜ぶ。

かげるは登場者が動くこと、幕を一  
枚隔て、影が映る所に、幼児の想像  
性を満足させ、白と黒の二色で表現  
される所が、映畫と相通するものが  
あり、子供を喜ばせる。一人で四つ  
位は人形を持つことが出来る。猶、  
固定したものは、映寫幕の内側に粘  
土の塊を置き突き挿すと便利であ  
る。

### 注意

1、氣候の好い時は戸外に出て木の枝  
に白布を吊しても簡単に出来る。戸  
外である時、椅子は持ち運びに不便  
であるから、小さな蘆を各自携帯さ  
せる。この蘆は古壘の表を三十五糎  
四方の大きさに切り、周圍を疊の様  
に布で縁取りをする。これは各自家  
庭で作らせると簡単に出来る。この  
蘆は非常に嵩がひく、携帯に便利で  
あるから、戸外の運動に疲れて休む  
時、防空壕に入る時、飯事の時の座

布圍等、色々な事に使用出来るので  
參考までに附記して見た。

2、映寫幕は弱い光線の場合は、人絹  
のやうな薄い布が良い。

4、登場人物は、出来るだけ映寫幕に  
近付けて動かす。

### 資材なしの保育案

石川女師附屬幼稚園

#### 作田せつ

凡そ保育案だけで保育は出来ぬ。これ等  
の與へ方が大切なのである。書現せない部  
面に大切な保育のある事を忘れてはなら  
ぬ。

#### 第一案

繩遊びが主となる日 屋内の保育、火

#### 準備

長い繩二本  
短い繩數本  
藁繩でよし

ボール一個

朝の遊び——朝會への緊張に備ふ

魚雷遊び(ボール遊び)

身體を温くさせる程度に

全體の子供が適度に温まるやうに  
四角張らずに(自由遊びの氣持)

約束○足に當つたら沈没

○人の事を云ふな、自分の足下をみ  
よ

方法○遊戯室一杯にひろがること

○先生が潜水艦で魚雷發射

○先生も子供も自由にどこでもかけ  
廻つてよい

要領○全體の子供が動けばよいのであ  
る。ボールの速度をうんとおそく。

そして前後左右に追ふこと、始め  
から當つてしまつては意義がな  
い。徐々に速度を速める。

○相當温もつた頃から續々當てるこ  
と當て始めたなら短時間に的中させ  
る。

○全體の子に當て、しまふ必要はな  
い運動量と採暖の状態によつて中  
止

○朝會とのけじめをはつきりさせる  
ところに訓練の要領あり。

朝會へ○口をどちて

○根敷に

○姿勢を正して

朝會（九時）

朝の挨拶 おはやうございます

宮城遙拜

大東亞戰爭必勝祈念

朝の體操

（當番兒は前方に立つて體操する。この時の當番の體操は實に立派である）

歩く ○行進曲に合せて

○うづまき、兔とび、片脚跳など加へ

○行進曲なし、足音を揃えて歩く

繩で遊ぶ

○一人残らず自分の力相當に運動出来るやう

う

○注意深く精一杯でやれるやう

○どうでもして飛び越したいと云ふ努力を

養ふやう

○みんなと一しよにの意識を高めるやう

○七八人が一しよに次から次からと行ふところ

に冬の運動としての價值がある。

約束 ○繩には身體がふれてはならぬ

○黙つて跳ぶ

○自分勝手に跳んでではならぬ

方法 ○跳び方

高幅高さと幅さ 鐵條網或はクリークなごの構態によつてさせ動く繩

○繩の越し方

兩脚跳び——うさぎとび

片脚跳び——ケンケンして

男とび——走つて跳び越す

女とび——女の段跳の要領で

○くどる（繩の低い程むつかしい）。

伏して

馬になつて

仰臥して

○團體で跳ぶ

始は二人から——だん／＼人數を増す

跳んだ足音が揃はねばならぬ

要領 ○次々で行ひ間隙を作らぬこと

○團體跳は一人跳の後に扱ふ

○跳べなかつた子を寒くなる迄待たせるやうなのは下手なやり方である。

○決して氣まゝ勝手に跳ばしてはならぬ

繩跳びの基礎練習

普通の繩跳びが出来る様に律動的な跳び方の練習をする

約束 ○足音をピアノに合せよ（二拍子）

方法 ○遊戯室の線又は印を繩として使用

○律動的に跳ぶこと

○前後に左右に

○二人手をつないで、（律動的にとべぬ子は特に上手な子供とつながせて）

要領 ○遊戯の間に、體操の間に適宜に取

入れて練習させる

○線を繩として、この線をふませず

に跳ぶことが大切。（いまに動く繩

に注意して跳ばせる前提である。

○自由に繩を與へて遊ばせる。

このあたりで運動量も相當となり體も温

くなる。

○自由にお話をする

お話 適當なお話をする

（繩跳びの餘波で騒しくなるやうなのは

いけない）

休憩 先生も子等も共に一休み

作業——十一時十分——十一時三十分

○雑巾は各自持参

○乾拭ひ

約束○働く時は黙つて

方法○各兒の机をみがく

○廊下をみがく

要領○各兒の集る場所を定めておく

○自分だけが拭くのではない、呼吸

をそろへて。その爲には数へる、

歌ふ等のことをわしてもよい。

献 ○雑巾の始末方

○手の洗ひ方

書食——十二時——十二時

(書食は十二時半頃からでもよい)

午後の遊び

猫とねずみ

○多くの子供が動かなければ、寒さに困

る、猫ねずみを十組程も作つて同時に

始める。次々と交替出来るやうにする。

○猫一人にねずみ一人を組合せる。

整理

體操 第一體操

お歸り 手を洗ひ、鼻をかんで

### 第二案

ボール遊びを主としたる日

朝の遊び

繩遊び——前日の要領

朝會 前日の要領

遊技(唱歌遊戯などの後に)

爆弾あそび(魚雷あそびの要領)

基礎練習

○音感の練習

ハホトの和音で伏せの態勢

歩いてゐる中で行ふ

他の和音に伏せたるものは爆死

駄足中に行ふ

方法○魚雷あそびに音感練習と伏せの訓

練を加へたものである。

○避爆中にハホトの和音があれば直

に伏す(他の和音をハホトと間違

へて伏したものは除外)

○足下に當てる代りに頭に當てる。

要領○ボールは上方へ投上げる。ボール

は中々頭のとつてへんへは的中しな

いが子供は當るやうな氣がして一

生けんめいに逃げる。

○温もりたる頃、先生はボールを持

つて子供を追かけ、頭上に軽く當

てる。

○時々爆音和音を入れて伏せさせ、

休息の時とする。

お話——紙芝居など

静かな雰囲気になつて

歩 く○足音そろへて高々と

拳取り遊び

注意を一途に集中させる

他の勝敗にも關心を持つ

平生目立たぬ子が勝つてくれると俄然人

氣がつく

常に人の後についてゐる子も、この時ば

かりは自信を持つ

約束○あと拳は不正

方法○兩方から一人づゝ出て拳をする

○負けた方が引込み次の子が出て勝

つた子に向ふ

要領○勝ち残つた組が勝

無關心であるやうな子は面白くない

○拳取りを離れての油断は断然禁止。

作業 十一時十分——十一時三十分

(前日の要領で)

晝食

手技の遊び

羽根つき

中々つけぬものだ。自分達もこんなにつけなかつたものかしらと昔を思ふ。

大抵の子は途中で止めてしまふ。黙つて丹念についてゐる子があたら認めてやらねばならぬ。先生も百までつけば相當暖くなる。

整理

體操——第一體操

お歸り 手を洗ひ、鼻をかんで。

第三案

小春日 屋外保育

朝の遊び——みんな外へ。

○王様ごっこ

日當りのよい庭へ先生の椅子五、六脚を出す。この椅子が王様の席

約束○順番を守らすこと

方法○ジャンケンで勝つたものが王様の席へ。

○椅子の數だけ組が出来るわけ

要領○先生も加減よく各組に入つて仲間

入

○駈足——庭一杯に走らせる、時々合圖

をしては黙つて止り、黙つて走るおけ

いこ

朝食○お庭で、前日の要領

歩く○街頭を歩く

方法○先生がつかない、街の要所に立つ

○電車道の横ぎり方おけいこ

○登園班別で歩く

遊

遊ぶ

○登園逆登り——(割合に幅のある登臺で)

扁平足の矯正にもなる

運動量は大きい

○登臺は這るばかりが能ではない。

腕、肩の力のない子は登れぬ

約束○途中で這り降りたものは後につい

ても一度

方法○先生も登る

要領○虚弱なものには適度なところで止めさせる

○手をつけさせずに登る

○裸足のこと

歩く——庭内

○遊戯 大詔奉戴日、日の丸の旗など青

空に相應しいもの

遊

遊ぶ

○赤が出た、陽が勝つた、追つかける、

團體遊戯

日月遊び 準備 直徑三十糎位の厚いオ

ール紙の圓板の一面を赤、一面を黄とするもの。

○赤が出た、陽が勝つた、追つかける、

この三つの判断と行動が同時になされ

ねばならぬ 機敏性の訓練によい。

○全員が同時に力一ぱい走るところに冬

の遊びとしてのいゝところあり。

約束○捕へられても泣くな

○捕へたらそれで離せ

方法○紅白對陣 三米位の間隔で、紅は

陽、白は月。

○先生は圓板を空高く投上げる。

○出た色の方が勝、追つかける

○定められた場所までの間で捕へる

要領 ○追つかけた場所まで待たせる

○笛の合圖で黙つて元の對陣位置へ

○この時喋つてはならぬ

お話會 日當りの場所へ子供達の椅子を持

出してお話よし、人形芝居よし紙芝居

よし自由遊び

作業 前日の要領 但庭掃除もよし

晝食 手技の遊び

王様あそび 朝の遊びの要領

整理、お歸り前日の如し

備考 1、唱歌遊戯の指導や工作 晝き方等の一

切を採らずに案を立てた。

2、斷片的な一日的な保育順序にしか過ぎ

ぬ

### 謹告

日本幼兒飛行機獻納貯金の提唱に  
ついては各幼稚園から多大の御贊  
同と御送金をいだゞいて感激して  
ゐます。第一期は今月末日を以て  
一應〆切りとしたが、引つゞき第  
二期をつづげたいと思ひます。來  
月號に更めて提唱しますが第一期  
にも増して御贊同願ひます。(係)

## 保育實習科生徒募集

本年四月入學セシムベキ保育實習科生徒ヲ募集ス其  
要項左ノ如シ

募集人員 凡ソ三十名

出願期限 一月二十五日ヨリ二月二十日マデ

入學資格 高等女學校卒業者、五年制高等女學

選抜試験 校ニ於ケル四年修了者、其ノ他

1. 學科試験

2. 期 日

3. 場 所

(附記)出願ノ手續其他詳細ノ事項ハ之ヲ記載セル印刷物

ヲ用意セルニ付其送附ヲ希望スル者ハ四錢郵券ヲ貼附シ

宛名ヲ記載セル封筒ヲ添へ本校教務課ニ請求スベシ

昭和十九年一月

東京女子高等師範學校

東京女子高等師範學校

東京都小石川區大塚町三五

# 生徒募集

本科 生 八十名  
託兒科 生 若干名  
研究科 生 若干名

願書受付三月二十日迄規則書は四錢切手  
封入の上申込まれよ。

玉成保姆養成所  
所長 有 院 丞 良

東京市杉並區西高井戸一丁目一三三  
省線 西荻窪下車直南約五丁

(ソフアヤ・アラベラ・アルウ井シ)

創立以來三十年。

大正五年東京市麴町區に創立。

昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、

附近に森あり、野あり、川ありて四時自

然の恩恵を受け、本校の特色とする自然

觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用

の手工等材料豊富なり。



# 生徒募集

一、定員 百二十名（本年度ヨリ時局柄志望者激增）  
シ現在百二十名ヲ收容セリ

一、出願期限 三月末日迄

一、入學試験ナシ本校規定ノ詮衡法ニヨリ許可ス

○規則竝ニ入學案内ハ四錢切手封入申込マレタシ

○高等女學校卒業セザルモノニシテ入學志望ノ者ニハ別科ニ編入スル規定アリ

東京都品川区大井原町五、二〇八（省線大井町驛ヨリ城南  
バス原停留所下車二分）

所長 土川 五郎

顧問兼講師 倉橋 惣三  
東京女子高等師範教授

# 生徒募集

十九年四月入學の生徒を左の通り募集いたします。

一、募集人員 一〇〇名

一、願書受付 十九年二月一日より受付けます。

一、入學詮衡 面接口答試問をいたします。その期日は入學申込次第御通知いたします。

一、規則請求 規則竝に入學案内御入用の方は四錢切手をそへて御請求下さい。

東京都淀橋區下落合三丁目一三八八番地

## 東京目白保姆學校

校長 和田實

電話 落合長崎二五五九番